

聖徒の道

1

VOL. 10 No. 1

1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第10巻第1号 1966年1月1日発行



表紙のことば

【ふくじゅそう】

福寿草

アジア東部の各地に自生するキンポウゲ科の多年草。日本では正月のはち植えとして早咲きさせたものを観賞する。花は短い茎に新葉とともにつくが、つぼみのうちはたけのこ状に葉片に包まれている。花卉は光沢のある黄色で、早春の日光に当たって開く。（国民百科事典平凡社版より）

伝道部長とこの1月号の企画を立てているとき、たまたま表紙のことに話題が及ぶと、伝道部長は「表紙は赤い色をしたハデなのがいい」とあの独得な日本語で話された。予算の関係もあり、原色製版不可能という条件で考えだしたのがこの表紙のデザインである。これから一年間季節に合わせてその時々を草花をテーマとしてとりあげて行きたい。日本中の教会を華やかな花でいっぱいにするという作者の気持もこの作品のなかに入れたつもりである。



— K —

聖徒の道 1月号 もくじ

図書案内	本部日より	家族のタテキスト	求道者のみなさまへ	訪問記	伝道本部	系図のページ	質疑応答	伝道部長メッセージ	予言者のことば
	24	20	16	12		8	6	4	2
			モルモン経について		家族組織を作ることとはなぜ大切か		ジョセフ・フィルディング・スミス	アドニー・Y・小松伝道部長	おさな児の真価 デビッド・O・マッケイ



希望の朝ぼらけ。

この日から一年がはじまる。

純白の紙に墨痕あざやかに、
書かれた一文字は、処女雪を
一歩一歩ふみしめて、三百六
十五日を歩んで行くその気持
に通じる。

今年も、教会堂建設、神殿プ
ロジェクトと多くの御業が押
し推められる。

可能性を秘めたこの一年、勇
気をもってスタートしよう。

目をさまし、堅く信仰に立ち雄雄しく、
かつ、つよかれ。

(コリント前二六〇二三)

聖徒の道 10巻1号

1966年1月1日

おさな児の真価

大管長 デビッド・O・マッケイ



一人のおさな児のほんとうのねうちは何か。私はあなたの子供のほんとうのねうちは何かとたずねている。赤ん坊の霊は天から、永遠の父なる神から来た。あなたの赤ん坊の霊は小さな肉体の中に住んでいる清い天使のようである。それは

天にまします父なる神の御前から来た。そして肉体に宿って、この世でわずかの間だけあなたと共に住むために来た。しかし霊界においてまた復活した状態において永久にあなたと共にあるために来た。

天の父なる神は、私たちが再び御前に帰ってくるができるために、私たちが清い霊と肉体とをもつことを欲したもう。赤ん坊も子供たちも両親も清くあるかぎり、彼らはいつも彼らの出てきた神のみもとへ帰ることができるのである。

神は、私たちがその肉体をおさな児たちのように清くたもつことを期待しておいになる。それであるからもしも私たちが神に従うなら私たちはおさな児のように清くあるにちがいない。私は、母の胎内から生れて来たままのように清く純くその身を保った人を知っている。あなたもその人を知っている。

あるところにハンナという名前の婦人がいた。彼女には子供がなかったので、神殿へまいる年ごと、毎年毎年泣きくれた。主が彼女に一人も子供を授けたまわなかったからである。彼女は、もしも子供を授かったならそれは自分にとって世界中で最上の祝福であると思った。全くその通りであろう。

さて、サムエル記上の第一章八節を読まれたい。

「夫エルカナは彼女に言った『ハンナよなげ泣くのか。なぜ食べないのか。どうして心に悲しむのか。わたしはあなたにとつて十人の子どもよりもまさっているではないか』。

しかしハンナは神に祈った。

「万軍の主よ、まことに、はしためのなやみをかえりみ、わたしを覚え、はしためを忘れずに、はしために男の子をたまわりますなら、わたしはその子を一生のあいだ主にささげます……」(サムエル記上、一〇十一参照)。

サムエルが生れた。そして、まだ子供のうちに神殿へつれて行かれたが、その時ハンナは言った。

「それゆえ、わたしもこの子を主にささげます。この子は一生のあいだ主にささげたものです」(サムエル記上、一〇二十八参照)。

聖書にはこれにつづいて次のようにしるしてある。

「そしてかれはそこで主を礼拝した」。

ある晩、ともしびが消えサムエルが床に入ってしまった、大祭司エリも眠っていたとき或ることが起った。

サムエル記上、第三章四節のところを開いて読みたい。

「主がサムエルを呼ばれた。彼は『はいここに居ります』と言って、

「エリのもとへ走って行って言った、『あなたがお呼びになりました。わたしはここに居ります』。しかしエリは言った。

『わたしは呼ばない。帰って寝なさい』
「主はまたかさねて『サムエルよ』と呼べられた。サムエルは起きてエリのもとへ行って言った。『あなたがお呼びになりました。わたしはここに居ります』。エリは言った。『子よ、わたしは呼ばない。もう一度寝なさい』。

「サムエルはまだ主を知らず、主のことばがまだ彼にあらわされなかつた。

「主はまた三度目にサムエルを呼ばれたので、サムエルは起きてエリのもとへ行って言った。『あなたがお呼びになりました。わたしはここに居ります』。そのときエリは主がわらべを呼ばれたのであることを悟った。

「そしてエリはサムエルに言った。『行って寝なさい。もしあなたを呼ばれたら』
「しもべは聞きます。主よ、お話し下さい」と言いなさい。サムエルは行って自分のところで寝た」。(サムエル記上、三〇四—九参照)。

主はなぜ、神殿の中でサムエルに御声で以て、自ら進んであらわれたもうたかサムエルが清かつたからである。

さて私たちは、主イエスに御手をふれたいただくために母親たちがその子供たちをみもとへ連れてきたとき、救い主がどのような子供たちを考えておいでになったかがわかる。イエスの使徒たちは母親たちをたしなめたが、救い主は悲しみを覚え、使徒たちを叱ってお言いになった。

「おきな児らをわたしの所へ来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのようなる者の国である」(マルコによる福音書十〇十四)。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員である父や母たちよ。救い主はあなたたちも全世界の人たちもふくめて、

「おきな児らをわたしの所へ来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのようなる者の国である」と言うておいでになる。

あなたたちの中に、タバコや強い飲物や短気や悪い手本でじゃまをして、彼らの来るのを止めて居る人が居るのはどうしてであるか。

あなたたちの子供らが清く汚れなく成長して、雨の雫のようにまたは「ゆり」の花の内部の白さのように清いまま「つくり主のみもとへ帰って行けるため、あなたたちの心や家庭に「主のみたま」が宿りたもうように祈りたてまつる。

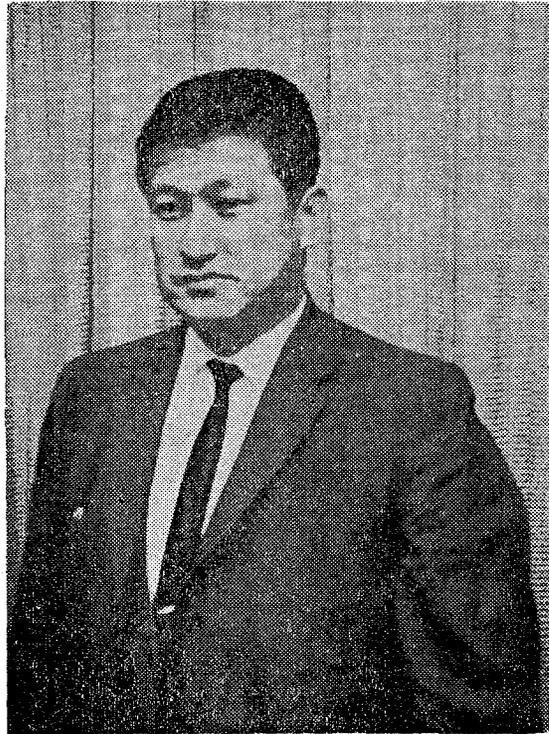
あなたたちが真理を愛しあやまりをにくむように、子供たちにもあなたたち両親にも私の祝福を授ける。



愛する兄弟姉妹のみなさま

あけましておめでとうございませう

アドニー・Y・小松伝道部長



ます。

私たちの福音の生活を分析し主の御業に充分の時間を使うように決心しようではありませんか。

私は日本の地において家族と共に皆さんに新年の御挨拶ができますことを、ほんとうに幸福に思っております。

私たちは新年を迎えるにあたって私たち自身を反省し、本年は更に主への献身と奉仕に進歩しようと決心すべきであり

私たちが大きな挑戦は他人に勝つことではなく自分自身の過去の業績を超越すことであります。主は私たち

の決心を望んでおられます。私たちがあいまいなふらふらした態度にならないように望んでおられます。

毎日が決心の時であります。実際に、毎日毎時多くの決心がなされております。その一つ一つが私たちの生活の奥深く影

響するのであります。その各々が私たちの性格を形成し習慣を設定し、それが更に他の問題に対する他の決心に作用して行くのであります。すべての私たちの決心の総額が私たちの生涯を幸福にするいは悲しいものにするのであります。

この世の中に生れて来たすべての人は自由意志の権利が与えられております。私たちは誰でもその生涯を自分の選んだ道に進める権利を持っております。自由意志には常に行動の自由とそれに伴う責任のあることを覚えておくべきであります。

私たちの天父によって約束されたすべての祝福は彼の律法に従うことを前提としております。律法に従う人々には、祝福は拒まれません。律法を無視しこれに違反する者には約束もなく祝福を要求する権利もありません。

教義と聖約八十二章十節に主は申しております。

汝らわが言うところを行わば、主なるわれこれに対して責任あり。されど汝らわが言うところを行わずば汝ら何ら約束を受けず。

私たちが正しい決心をするように助ける他の聖文としてマタイ伝六章三十三節があります。

まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう。

本年、主に献身するために、次のことを実行して、よりよい教会の会員となるように、決心しようではありませんか。

聖餐式に出席する

安息日を覚えてこれを聖くする

什分の一及びその他の献金をする

知恵の言葉を守る

思想にも行為にも清潔である

忍耐強く理解ある人となる

友人を愛する

家庭生活を幸福にする

今日教会において幸福な家庭生活が強調されております。他のすべてのことと同様に幸福は計画され求められねばなりません。それは自動的にもたらされるものではありません。各家庭は幸福を見出すために自分自身の問題を遂行して行かねばなりません。

私たちの家庭は私たちの最大最愛の財産であります。

両親と子供たちは協力して家の中の日常の仕事をして家族の一人一人がその家

庭内に在って大切な役目を果していると感じるようにすべきであります。共に働らくことは楽しみであります。特に各人がその割当てを遂行して、今日最も必要とされている協力精神をもたらすことは大きな喜びであります。

家庭において私たちは共に礼拝し、家族の祈りを持ち、又共に学び遊ぶ家庭の夕を設けるべきであります。

私たちの天のお父さまは私たちに正義に立つように期待しておられます。立つとは、それに就て何かなすことであります。私は今年私たちが主の律法と誠命に従って正しい潔い生活をするように又教会の秩序に従いその指導者を指示するよう望み祈っております。

皆さんがその目標と決心を達成する上に主の祝福がありますよう、私は皆さんがこの目的に成功されますよう常にイエス・キリストの御名によってお祈り致しております。

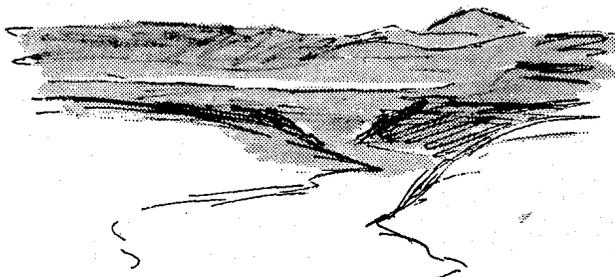
「教会は大幹部が全世界にわたって担当する任務を拡大する」

大管長会の最近の発表によれば、十二使徒最高評議員会とその他の末日聖徒イエス・キリスト教会の大幹部が全世界にわたって担当する任務を拡大する伝道部監督計画が行なわれる。

この新計画によれば、全世界の伝道部を十二の大きな地域にわけて、十二使徒評議員会の会員がそれぞれの地域を直接

担当する。そして、十二使徒評議員会補助の一人かそれ以上、または七十人最高評議員会会員の一人かそれ以上が、十二使徒評議員会会員の直接指揮を受けて、それぞれの地域の監督として働らくことになる。

韓国伝道部を含む地域は依然現在のように十二使徒評議員会会員ゴールドン・B・ヒンクレー長老の指揮のもとに、七十人最高評議員会会員のマリオン・D・ハンクス長老が監督をする。



マルコによる福音書 9章43. 45節について

解答者

12使徒会会長

ジョセフ・フィールデング・スミス長老

質問

質疑応答は、教会の英字機関誌 The Improvement Era に毎月掲載される Your Question を翻訳したもので、私たちが日頃疑問に思っている問題に、十二使徒会会長のジョセフ・フィールデング・スミス長老が教会の公式解答をあたえてくださるものです。

私たちは「救い主」が早いころなされた「導きとめぐみを施す業」や、とくに次のようなみことばを論じていました。すなわち、

「もし、あなたの片手が罪を犯させるなら、それを切り捨てなさい。両手がそろったままで地獄の消えない火の中はおちこむよりは、かたわらになって命に入る方がよい」。

させるなら、それを切り捨てなさい。両足がそろったままで地獄になげ入れられるよりは、片足で命に入る方がよい」(マルコによる福音書九〇四十三、四十五)。

私たちが「救い主」の勧告に従って片手や片足を切り捨て、片目をぬき出すことはできないことだと私は考えます。人が片手その他を切り捨てたらかたわらになる危険があるでしょう。

以上の御教えを実際に応用するにはどうしたらよいか御教示下さい。



質疑応答

質 疑 応 答

解 答

確にとらえるほど聡明であったと信ずるべきである。

主が肉体の一部について言っておいでになったとき、主は私たちを正しい道からはずれさせたり、主から受けている神のいましめにけんそんな心で従がわないようにさせようとしている親しい友や親戚の人々のことを考えておいでになったことが明らかである。

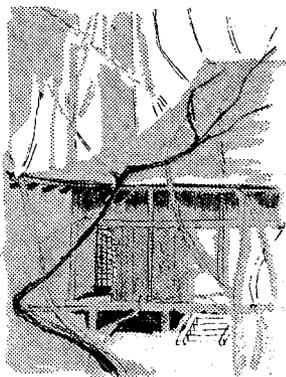
もしも親戚友人の人たちが、人を神のいましめからはずれさせようとしているなら、その人たちに従って亡びに至る悪事をするよりもその人たちの友情や交わりがない(すなわち手を切る)方がよい。このような比喻または説明の方法は現代と同様古代にもふつうに行なわれた。それであるから、新約聖書の中にあるこれら昔の表現を読むときに、マルコがしるした「救い主」のみことばの中にのべてあるこのようなことばを文字通りに(腕を切断すると)解釈するべきではない。これらのことばを正しく理解するとき、それはひじょうに印象的な比喻となる。

もしもあなたに、あなたをして罪悪を犯させようと誘惑する

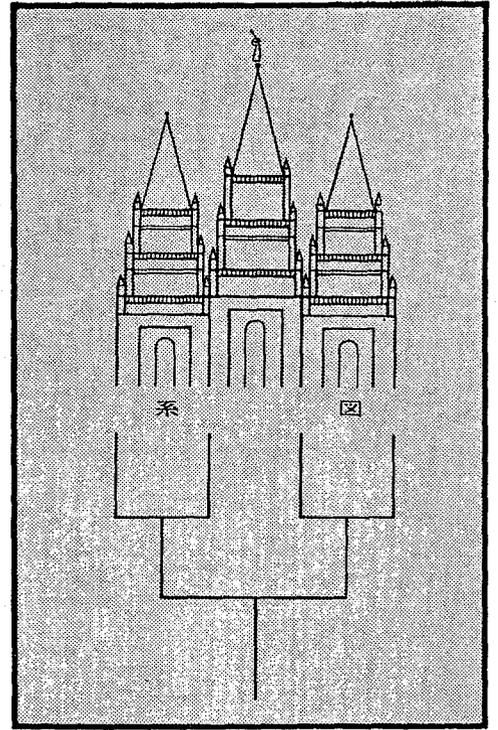
友人か仲間があるならばその人々を切りはなせ(その人々と手を切れ)。その人々が、あなたを引きずりこんで神のみこころにそむく罪悪を犯させるといけないから、その人々の交際から手を引け。不正な行為にふける友人や仲間につられて、神のみこころにそむく罪悪を犯すよりは、これらの人々をすてる方がよい。「あがない主」が述べたもうたこれらの比喻はひじょうに印象的であるから、何か不正な計画や行為が考えられているときはいつでも、たとえどんなに貴重であった友情を失なうことになっても、友人たちの誘惑をすてることができるようわれわれ一人一人の心に強く訴えわれわれにとって力となるのは当然である。

新約聖書のほかに旧約聖書を読むときにも、古代ユダヤ人がその思想を伝えたり、言うべきことばの重要さを人の心に刻みつけるためにいつもやたら「比喻」を用いたことを心に留める必要がある。新約だけでなく旧約聖書にも、大切な教えや予言のことばを人々の心に刻みつけようとして用いたすぐれた比喻がたくさんある。これらのことばを聞いた人々が、そのことばが伝えようとしている力強い本当の意味を深く心に刻まれたこととはほとんど疑うことができない。これらの人々は、これらのことばを、言っている通り文字通りには受けとらなかつたであらう。

われわれは、これら昔の人々がこれらのことばの言おうとしている本当の意味と「救い主」のみことばの正しい意味とを正



ることはなぜ大切か



家族組織をつくってこれを永続することが、教会活動としてひじょうに

大切に考えられているのは、ほんとうになぜなのでしょうか。

註 「家族組織」については「日本系図探求要覽」二十四頁第四章参照のこと。

教会の大幹部の方々が家族の

大切なことにとくべつ力を入れて話しておられる今日、教会の福音の教義の中で説かれている或る重要なことを心にとめるのはよいことである。教会の高い標準を忠実に守っている末日聖徒の家族は、これからさき永遠にまで永続することになっている。ジョセフ・F・スミス長老は次のように言われた。

「死んだ後までも家族のつながり、すなわち父母とその子供たちがたがいに義務を負って居り、またたがいにそれぞれの立場に立っている関係を認め合う。家族のつながりがつづくという思想を抱いている者が末日聖徒のほかにあるか。この家族のつながりは神のみわざの偉

大にして完全な組織の中にある一つの単位であるから、すべてが永遠につづくことになっている」(福音の教義、二二七頁参照)。

愛情のきづな、慈愛にみちた交じわりの結果、献身的な奉仕などは永遠なものであつて、此世よりも幸福な来世においてこれらの完全な実が結ぶことになる。われわれが父と母、夫または妻、子供たちに対して抱く、かわらない愛情は死と共になくなるはずのものではなく、むしろ死を通して「最高の栄に昇る」ことを得させるはずのものである。家族という関係をもつときだけ、人は復活をして「最高の栄に昇る」ことができる。家族は「最高の栄に昇る」ことのできる単位である(人は独りではないの栄の最高には昇れない)。

この完全な昇栄(日の栄の最高に昇ること)もしくは「永遠

の生命」、は子孫と無関係であるまたは先祖と無関係である単独の家族では得られない。父母たちはそれ自身の父母から見れば子供たちであるから、現代の世代から最初の世代までさかのぼる家族の連鎖の中には家族と家族のつながりがなくてはならない。「死者なくばわれら完うせらるるを得ず。またわれらなくば死者もまた全うせらるるを得ず」(教義と聖約百二十八〇十八)。

家族という団体の中で生れる愛はその範囲をひろげて子供たちの子供たち(孫たち)を含み、孫たちの子供たち(曾孫たち)を含め、このようにしてどこまでもつづく。このような(愛の)きづなは死よりも強く、その範囲をかぎりなくひろげて、はてしない子孫にまで至るにちがいない。

この真理は教会の初期の指導

者たちがよく知っていた。ノーヴーでハイラム・スミス大祝福師が与えた祝福の中には、両親から子供たちに祝福がつづく点を力説して「この神権の祝福はその賜物とめぐみと共に汝の頭に結び固められ、また汝につづく代々の子孫の頭に結び固めらる」と言つてある(大祝福師の祝福、第二巻、二二四頁)。

一組の夫婦の子孫が数百年の間に如何に急速に増加するかは容易に証明してみせることができる。わが教会の一族に平均約四人の子供があると、その一人一人がおとなになってまた各々四人の子供をもつと仮定しよう。この増加率が各世代で三代もしくは百年の間各々の家族につづいたとすると、その結果は六十四人の曾孫があることになる。このようにして二百年間には四千九十六人の子孫、九代目には二十六万二千三百四

九代目には四千九十六人の子孫、

家族組織をつく

人、十二代目には千六百七十八万七千四百五十六人、十五代目すなわち今から大体五百年後には十億七千四百三十六万一千八百八十四人（全世界人口の充分の三分の一に及ぶ）子孫ができるであろう。

家族の中にはこれよりも大きな増加率で急速にふえるものもある。また一方には死にたえてしまふ家族もあるであろう。しかし、今から九代か十代前（千六百三十年—千六百四十年）にアメリカへ渡ってきた先祖のうちどれか一つは、今日此国の内外にある家族をふくめてきわめて大きな数の子孫をもつに至っていることを考えなくてはならない。

広い意味において、一つの家族は父母と子供たちから成るだけでなくその子孫も家族の中に入る。子孫たちが異った家族の子孫と結婚した者たちも家族のうちに入り、出産と結婚によって家族の員数はたえずふえて行く。両親が神殿で永遠の結婚をしてその仲からうまれた子供たちが「誓約の子たち」（結び固めの儀式を要しないで両親に結び固められる子供）であるときこの家族の組織は家族のうちの

忠実な者のすべてに対して永続するにちがいない（背教をした者はこの家族のつながりの中からぞかれる）。

一つの家族の中では、その家族の中の父親が（家長として）管理をし、その家族は彼の名前をもつ。この父親が生きているうちには、それ以上の組織を必要としない。しかし父親が行方不明か死亡した場合、母親が代って家長の職（とくに系図関係の事について）をつぐ。両親とも死亡したときには、（結婚をして家族に加えられた者も入れて）子供たちやほかの子孫たちが、死亡した父親——本来の家長——に代って（系図関係の事を）行なう「会長とその他の役員」を選ぶ必要ができてくる。

「家族組織」と呼ばれるこのようなグループは特別な目的をもって組織される。それは両親が生きていたうちに責任をもっていたことを実行することである。従って正式の「家族組織」は単にそのグループの共通の祖先（父母）の代行をするだけである。それで、選ばれた役員たちは自分が彼らすべての亡くなった父母の代表者もしくは代行者であるといつも考えていなく

てはならない。

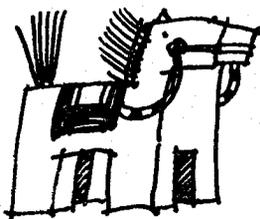
子孫のだけでも先に立って、（家族組織に属する）ほかの家族たちが家族の結びつきをつくって、一体になるよう勧誘をすることができるとも、生きてくる者はだれであっても、生きている子孫たちの住所姓名を全部含むことができるだけ完全な一覧表をまずつくるがよい。これは大仕事であるかも知れないが、最初の集りを開くに当り、だれひとり落すこともなくだれひとり招待されない者がないようにすべきである。このような手ぬかりがけつして起らないために、子孫の人たちが住んでいる地方の新聞紙に充分の通知（広告）を出して、家族の人々を招くがよい。

グループの人々がこの呼びかけにに応じて集ったときに、この集りを開いた者が仮議長となり、正式の家族組織の望ましいことと、その正しい目的とを説明するがよい。そして出席者一同にそれだけの考え方をのべ、また計画を賛成する機会を与えるべきである。もしも承認が得られたなら、次に役員の名指と選挙とを行なう。後に、すべてが秩序立って行なわれるように

規約に付則とを採用するがよい。

家族（血縁関係のある親戚を含む大家族）の懇親会や遠足を通して、これら家族の人々は一層親しくなり、こうしたことがお互いの間の一層大きな愛と一層同情のある理解とを増すようにならなくてはならない。家族の系図探求と神殿の儀式とは、全部の人々の努力を結集して不必要な重複をさけるように組織立てることができる。先祖の生活を知ることが、現在の家族が立派な生活をいとなむ刺戟とならなくてはならない。

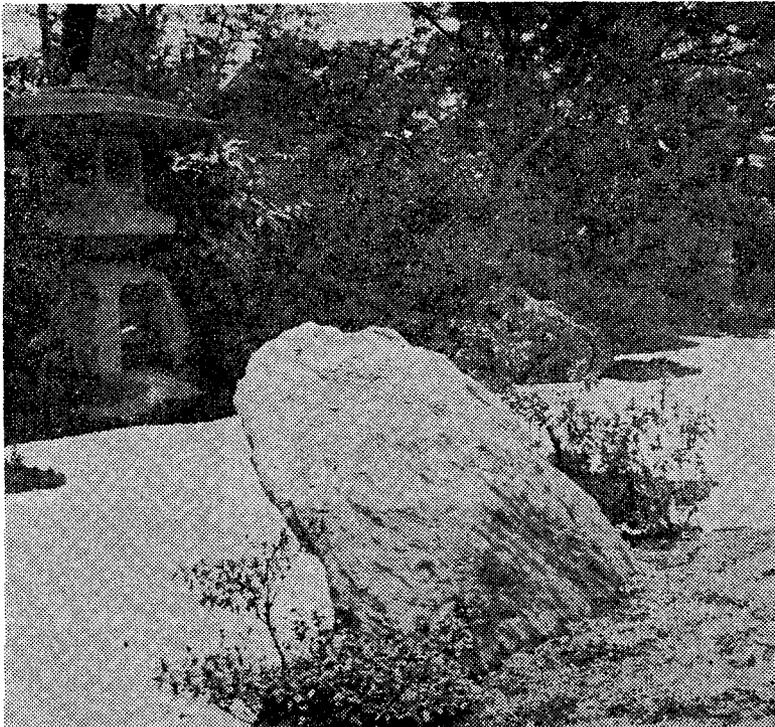
註。以上は「ファミリーグループシート」を作製する際に必要な「家族代表」を選び出すに当って「家族組織」をつくる必要のあることを力説した記事である。



伝道本部訪問記

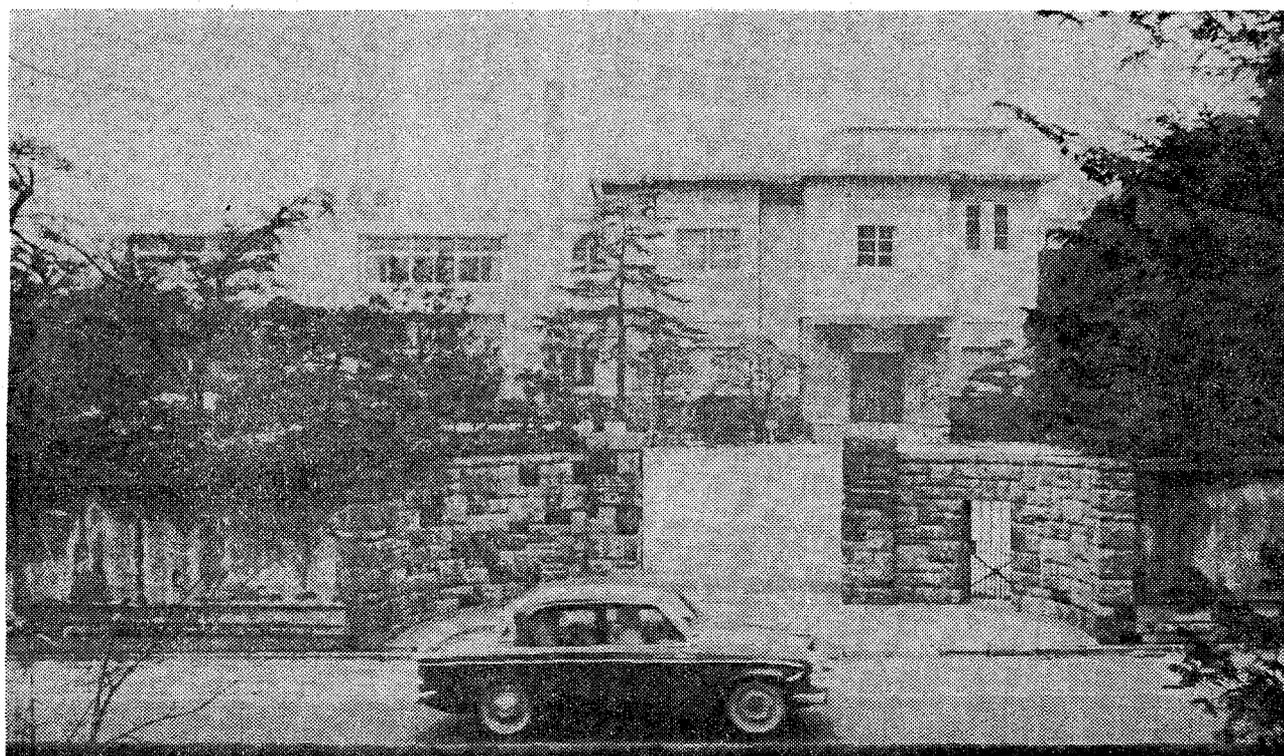
——伝道活動のかなめは忙しい毎日です——

本部内の庭園

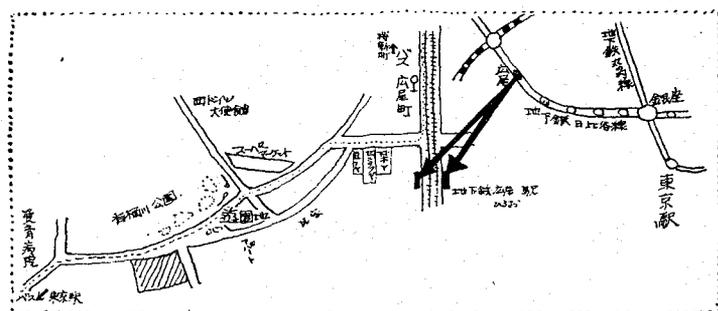


支部訪問記で親しまれていました支部紹介のページを再度連載することにし、今月号はそのはじめとして伝道本部を山田五郎第一副伝道部長のペンで訪問しました。来月号からはみなさまの支部を順次訪問しますからご期待ください。

地下鉄日比谷線広尾で下車徒歩五分、有栖川の宮記念公園の横、石塀に立派な表札がかかっている。一歩中へ入ると建物全体が雄々しく目に映る。左手に日本風の庭が目を楽のしませ、心にやすらぎをあたえてくれる。この地に召された数多くの宣教師たちが日本で初めて過した一夜も、また最後の一夜もここでありそれぞれの思い出のページをかざっているにちがいない。港区麻布広尾町十四の二は今から十七年前に伝道本部としてアジアの先進国日本に住む人々が救いを得るため、故マリーウ・カウリー十二使徒の祈りによって、献堂された。時に一九四九年七月十七日であった。祈りの中で故カウリー使徒は日本はアジアの指導国となり、数多くの神殿が建てられるであろうと予言した。戦後この地に再び伝道部が開かれてから以来、伝道部長は、クリッソールド伝道部長(現在ハワイ神殿長)マリス伝道部長、アンドラス伝道部長アンダーセン伝道部長、そして小松伝道部長と代を重ねてきた。事務室の入口を入るとすぐ右の壁に宣教師一人一人の写真がかけられてあり、いつもきれいな花がいけられてある。この写真の一人一人が兄弟、姉妹の支部でそれぞれ日本人の救いのために働いてくださっていることを思うと一人一人の写真を感謝の念で見ると。入口の左手には受付の札が立ち机に向ってタイプライターをパチ、パチ、と打ちながら働く受付の姉妹が目につく、受付は電話の応待、来客の接待、宣教師から来る週間報告のまとめ等忙がしい。伝道本部に電話をかけると、やさしい声で、きれいな日本語が流れて来る。モシモシ、モルモン教会伝道本部です。これも受付の姉妹である。また、テープレコーダーを廻してイヤホーンをつけてタイプを打っている姿をよく見かけるが、音楽でも聞きながらタイプを打つのかと間違うが、伝道部長のデスクティションを取ったり、手紙やメッセージをテープに録音したものを彼女が活字にしているのである。この手紙や、メッセージは、ヒンクレイ使徒にもまた宣教師の指導のためにも必要なものなのである。また伝道本部に来るあらゆる郵便物を受け取り分類して会計に関するもの、あるいは記録、または部長にとそれぞれ渡



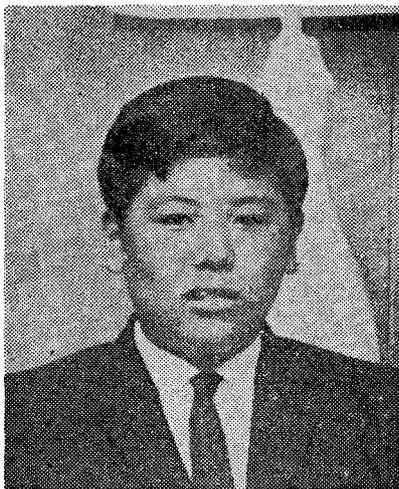
伝道本部 全景



■交通■ 東京駅から地下鉄丸の内線→銀座乗換→日比谷線広尾下車、東京駅丸の内側バス「桜新町行」広尾町下車 いづれも徒歩5分

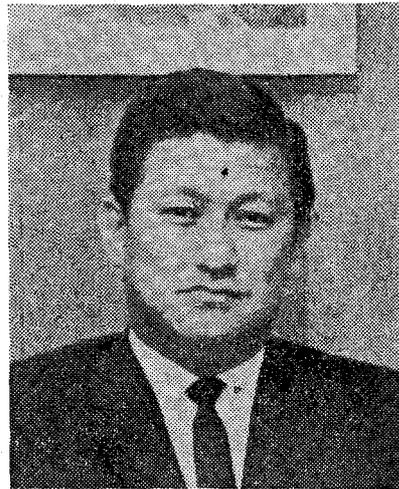
す、仕事もある。一人の宣教師が帰ると三通の手紙が必要で、一通は両親に、一通はワード部監督に、そしてもう一通はステークス部長に、また一人宣教師が転勤すると七つの記録を訂正する。もし一九〇人の宣教師が半年でそれぞれ転任すると、六ヶ月で一三三〇の個人記録を書き変えたり直したりしなければならぬ。今迄に一日で一番多く手紙をタイプした数を聞いて見るとなんと一日四〇通もタイプしたとのこと、これを一日八時間労働としたらなんと一時間に五通、一通あたり十二分と言うスピードぶり、タイプストとして一分四〇ワード打てば良い方なので一通四〇〇ワードぐらいの簡単な手紙でも十分は充分かかる。伝道本部で働く宣教師たちは、この姉妹もそうであるが、事務だけが仕事ではない。他の宣教師と同じように日本語の勉強もし、また家庭集会も大切な仕事である。記録係のデスクでは一万近い会員のメンバーシップレコードを保管し、会員が移動したり、個人記録の変更通知が各支部からあり次第、記録を正しソルト・レークと連絡事務にあたってい

る。現在当伝道部には二十九の支部があるが、その他に在日米軍に籍を置く八つの支部と八つのグループの記録もここで保管している。またメンバーシップレコードは正確に保たれ、それを元に現在支部には何人会員がいて、誰れと誰れがどの神権の職にあるか等すぐ解るようになってい。また各支部から出される四半期報告も、ここで整理されている。記録の提出が遅れたり、不明確だったり、あるいは不完全であると問い合わせの手紙が出されるのもこの係からである。アメリカのソルト・レークの教会本部に出される殆んど全ての記録に関する報告はここでまとめられているのである。各地方部、各支部の兄弟姉妹や宣教師たちがいかに忠実であるかを予言者に報告し、知らせている。また四二FPと云うピンク色の表紙で出来ている年間報告は今月中にはアメリカの方へ伝道部として提出される。幼児が祝福されたり、会員が生まれたりする時に支部ではGシートと云う用紙を提出するが、それもここで処理されたアロン神権内での神権昇進の時に出されるGシートも長老に推選のGシ



ジェイ兄弟

ジユデイー姉妹



アドニー・ヨシオ・小松伝道部長

トも伝道部長にサインをもらう前に必ずここで一度調べ、部長の許可がおりれば、また支部に返送するのもこの係の仕事である。

階段を下へ行くとガレージに行けるようになっていたが、その右側には鉄の扉が重々しく見える。この中で一人の長老が忙しく何やら包んでは字を書いている。冊には教会の図書がぎっしり、そして書籍注文伝票が次々と処理され、見る見るうちに包みの山が出来上がる。この部屋の係は書籍係で、兄弟姉妹からの注文の本を、要求にもとづいて、又各宣教師のために発送している。心の糧となり証詞となり、神への道の教えを伝えるこれらの書物が少しでも早く、着いてくれることを願って止まない。

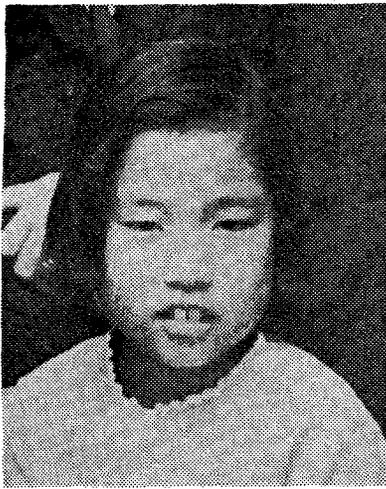
伝道部長には副伝道部長の外に二人の補助、アシスタントがいる。現在は一人をマッカーサー長老、もう一人をゲーリング長老で、一人はおもに直接伝道活動、すなわち伝道上のことについて、もう一人は地方部宣教師のことについて伝道部長の手足となって補佐している（地方部非専任宣教師のことではな

い）。すばらしい組織と行動力に感心するのみならず、その働きを見ていてまさに神の導きたもう教会であることが解る。実に二〇〇名にもおよぶ多くの宣教師が召され目的をより効果的に、まっとう出来るように彼等は働くのである。故カウリー使徒は日本の地に多くの神殿が建てられアジアの中心となって先進するであろうと云われた言葉が今や日一日と実現に近づいているのも、各支部、地方部の努力はもとよりだが、このようにして働いている人たちの影の力もまた大きなものである。

さて伝道部長の家族を訪ねてみよう。ハワイ出身とは思えない程の日本調に気がつく。JUDY・N・KOMATSU姉妹は六人兄弟の四番目として、ハワイホノルル市で生まれ、ADNY・Y・KOMATSU伝道部長と知り合う迄は、末日聖徒イエス・キリスト教会を知らなかった。小松姉妹は「清潔で誠実なところにはひかれました」とおっしゃった。ハワイではあまり日本語は使わなかったの事だが、なかなか立派なものである。小松姉妹と話していると、ドアーゴしに男の子と女の子の

話し声があるので、その子供たちと話して見ると、長男のジェイ(JAY)君はお母さんのJUDYのJと、お父さんのADNYのAYを合せての命名との事、当年十三才だそうだが、すでにお母さんよりも大きく成長している。中学二年生で、ハワイ式に言えば八年生、中学二年生とは云え福音に対する知識や証詞は、どうして大したものではない立派な両親から良く学びとっているらしい。子供は四人ともまだ日本語が出来ないが、覚えるのは早く、食事の祈りはもう立派に日本語でやっている。学校は四人共近くの私立学校で、ニシマチ、スクールといふ貿易やその他仕事上で日本に居る外国人のためにある学校で、何んでもライシャワー在日米大使夫人の親戚の方が経営しているとの事である。この学校は全部英語で週五時間程の日本語のクラスがあり、習字の時間もあるのだ、面白く楽しい様子で、習字が楽しいのはまづ墨をすって、筆で字を書くのがめづらしいのと好奇心が手伝っているらしいが、仲々上手に筆で字を書くので感心した。長男のジェイ君は詩人で、散文や、詩を

ジル 姉妹

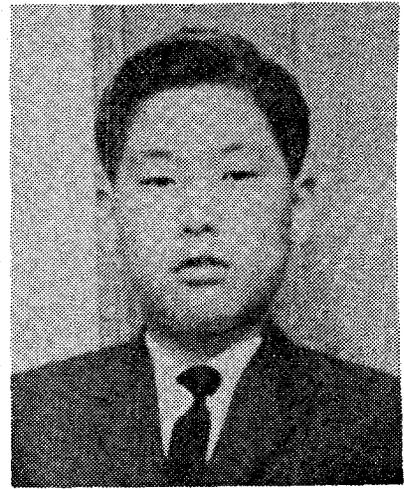


手先がとても器用だから手細工が好きで模型飛行機のようなものになると兄のジェイ君よりも上手に早く作るそうである。二人の女の子は上の子をジャンちゃんと言ひ十一月六日に十才になったばかりで小学校五年生、ジャン(JAN)と言う名前もJAYと同じように両親の名前からもらって名が付けられ、お母さんのJとNその間にお父さん

のAをもらった。小松姉妹の話によると『私たちは最初の子が女の子であればジャン(JAN)男の子であればジェイ(JAY)にしようときめていました。そうしたら初めての子が男の子だったのでジェイにし、三人目が初めての女の子だったのでジャンにしました。』ジャンちゃん

は絵をかいたり、切りぬいたりすることが好きで宣教師たちが忙がしく働いている機の横で一人一生懸命絵をかいたり、ハサミを使っている姿をよくみかけます。一番下のジル、ノーリーン(JIL・NOREEN)は四年生で十一月八日に九才になったばかりで姉のジャンちゃんと一緒に切手集めに熱中している、数多くの郵便物が受付に着いて、それぞれの係に分類されると、さっそく愛嬌をふりまきながらおねだりして歩く賢実型である。まだ人形を持って喜ぶ子供ですと小松姉妹はいわれた。十月に地方部長セミナーが開かれた夜はちょうどハローウインで『子供たちはそれぞれ思い思いの仮装をして家から家へと廻りTRICK・OR・TREAT(何かもてなしてくださるか、いたづらをしようか)とい

グラント兄弟



ジャン 姉妹



書くことに特に秀れているとのことである。弟のグラント君は十二才中学一年生でもっぱら外で活動する方が性に合っているという感じで、小松姉妹は『グラントはハワイにいた時は大の勉強ざらいで困りました。手伝って教えても勉強などしようとしなかったのに、近頃はグラントが一番良く勉強します。夜も一番遅く迄本を読み熱心に勉強するようになりました。多分ニシマチ、スクールの小人数クラスが良いのかも知れませんが』と云われた。各クラスは約十五人位との事である。七月私たちがハワイ神殿を訪問していた時、ホノルルのタバナクルで開かれた小松伝道部長の歓送会の時にお祈りをしたのはこのグラント君であった。グラント君は

が好きで模型飛行機のようなものになると兄のジェイ君よりも上手に早く作るそうである。二人の女の子は上の子をジャンちゃんと言ひ十一月六日に十才になったばかりで小学校五年生、ジャン(JAN)と言う名前もJAYと同じように両親の名前からもらって名が付けられ、お母さんのJとNその間にお父さん

のAをもらった。小松姉妹の話によると『私たちは最初の子が女の子であればジャン(JAN)男の子であればジェイ(JAY)にしようときめていました。そうしたら初めての子が男の子だったのでジェイにし、三人目が初めての女の子だったのでジャンにしました。』ジャンちゃんは絵をかいたり、切りぬいたりすることが好きで宣教師たちが忙がしく働いている機の横で一人一生懸命絵をかいたり、ハサミを使っている姿をよくみかけます。一番下のジル、ノーリーン(JIL・NOREEN)は四年生で十一月八日に九才になったばかりで姉のジャンちゃんと一緒に切手集めに熱中している、数多くの郵便物が受付に着いて、それぞれの係に分類されると、さっそく愛嬌をふりまきながらおねだりして歩く賢実型である。まだ人形を持って喜ぶ子供ですと小松姉妹はいわれた。十月に地方部長セミナーが開かれた夜はちょうどハローウインで『子供たちはそれぞれ思い思いの仮装をして家から家へと廻りTRICK・OR・TREAT(何かもてなしてくださるか、いたづらをしようか)とい

のAをもらった。小松姉妹の話によると『私たちは最初の子が女の子であればジャン(JAN)男の子であればジェイ(JAY)にしようときめていました。そうしたら初めての子が男の子だったのでジェイにし、三人目が初めての女の子だったのでジャンにしました。』ジャンちゃん

は絵をかいたり、切りぬいたりすることが好きで宣教師たちが忙がしく働いている機の横で一人一生懸命絵をかいたり、ハサミを使っている姿をよくみかけます。一番下のジル、ノーリーン(JIL・NOREEN)は四年生で十一月八日に九才になったばかりで姉のジャンちゃんと一緒に切手集めに熱中している、数多くの郵便物が受付に着いて、それぞれの係に分類されると、さっそく愛嬌をふりまきながらおねだりして歩く賢実型である。まだ人形を持って喜ぶ子供ですと小松姉妹はいわれた。十月に地方部長セミナーが開かれた夜はちょうどハローウインで『子供たちはそれぞれ思い思いの仮装をして家から家へと廻りTRICK・OR・TREAT(何かもてなしてくださるか、いたづらをしようか)とい

ってはお菓子をもらって歩く』ジャンちゃんもジルちゃんもせむし男や玉子のオバケに化けてやって来てセミナー出席者にお菓子を置いて行った。普通は何かお菓子をあげなくてはいけないのに逆に置いて行くのだからお母さんにて心のやさしさがうかがわれる。

第七代目の大管長で一九〇一年には使徒として末日に初めてアジアの日本に福音の戸を開いた、故ヒーバー・J・グラント大管長を御存じと思う。小松伝道部長は、もしもう一人男の子に恵まれたらヒーバーと名付ければ、ジェイも、グラントもいるから……と冗談を云われた。

その他に本部には伝道部日曜学校、MIAの部屋もあり各支部、地方部から送られて来る大切な書類や、補助組織の備品等も保管されている。伝道部翻訳室もここにありテキスト、手引等の殆んどがここで日本語に翻訳されて、福音の伝道に大きな役割を果している。とに角、この建物の中で、しかもここで働く人々と共に一日過す機会があれば誰れもが回復された真の福音とその力をひしひしと身を感じるに違いない。

第一回神殿訪問に参加できた人々は本
 当に幸福でした。訪問は二年前から計画
 され一九六四年一月に各支部から神殿
 訪問参加希望者のリスト提出を受けてか
 ら、一年半準備を重ね努力を払ってやっ
 と実現しました。北は北海道から、南は
 沖縄迄の全伝道部から集まった参加者た
 ちは決して裕福な人たちはばかりではあり
 ませんでした。外国においては自動車
 を売って、神殿行きの費用にあて
 た例を数多く聞いていた私は「私は車を
 売ろうとは決心しなかった。もちろん売
 る車も家もない。主は求めるものが正し
 ければ、その願いを叶えて下さると約束
 して下さっています。また義の祈りは、
 心の内に燃えています。神殿に行くため
 の祈りは、主の御意志に義の祈りであり
 正しいものであります。家計を切りつめ
 ると言ってもこれ以上きりつめようがな
 い。もし病気にでもなったらどうしよう
 と心配もしましたが、この崇高な目的の
 ために計り得ぬ主の助けを証詞した人も
 少くなくありません。二十代にやっとな
 れをつげようとす年頃の人たち、別れ
 をつげればかりの人たちは、例外は別と
 して神の誠命を守ることによって得る生
 活の恵みで精いっぱいであり、貯める余
 裕は少ないのです。主は求めよ、そうす
 れば与えられるであろう。ただ、そう
 すれば開かれるであろう、と云われた。
 そこで皆んな求めた。たいた。しかし
 それだけで急に収入が増えるものでもな

さあ 準備を はじめましょう

神殿プロジェクト

聖典を通して、私たちは昔の聖徒たち
 がいかに熱心に福音を求め学んだかを知
 ることができます。現代のように物質、
 文明に恵まれなかった聖徒たちは、聖典
 を手にして学ぶことのできたのはほんの
 一部の人々にとどまり、印刷技術もあり
 ませんでした。私たちは自分が求めれば
 いつでも聖典を手にして福音を学ぶこと
 ができます。また予言者や、伝道部長の
 メッセージも毎月の聖徒の道を通して知
 ることもできます。しかし昔の聖徒たち
 が正しく福音を聞き学ぶには大変な努力
 と忍耐が必要であったに違いありません。
 イエスの弟子たちは村へ行き家を訪
 れ食堂に集い町を行って『天国が近づい

た』と宣べ伝えよと命じました。イエス
 は、自分自身町々村々を巡り歩いて福音
 を宣べ伝えました。『イエスは、すべて
 の町々、村々を巡り歩いて、諸会堂で教
 え、御国の福音を宣べ伝え……』マタ
 イによる福音書九章三五節）また聖徒た
 ちはイエスがおいでになつて御国の福音
 を宣べ伝えるのをどれ程待ち望み、またよろ
 こびで迎えて熱心に耳を傾けたかを知る
 ことができます。『イエスはガリラヤの
 全地を巡り歩いて、諸会堂で教え御国の
 福音を宣べ伝え民の中の……こうして
 ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユ
 ダ及びヨルダンの向こうからおびただし
 い群衆が来てイエスに従った。イエスは

66年 大会予定

みんなで参加しましょう

- | | |
|--------------|--|
| 北海道地方部 | 五月十四日・十五日 |
| 一月二十九日・三十日 | 八月十三日・十四日 |
| 五月二十八・二十九日 | 二十七日・二十八日 |
| 八月二十日・二十一日 | (地区大会) |
| 十一月二十六日・二十七日 | 十月二十二日・二十三日 |
| 東中央地方部 | (この時昨年七月ハワイに訪
問した折、いろいろ協力くだ
さった、ハワイの会員約百名
が出席したいという知らせが
ありました) |
| 三月二十六日・二十七日 | |
| 六月十一日・十二日 | |
| 九月十日・十一日 | |
| 十一月十二日・十三日 | 沖繩地方部 |
| (地区大会) | 三月十九日・二十日 |
| 西中央地方部 | 六月二十五日・二十六日 |
| 二月十二日・十三日 | 九月二十四日・二十五日 |
| 二月十九日・二十日 | 十二月三日・四日 |
| (地区大会) | |

い。それは人知のおよばぬものを感じるのではありません。『あなたがたのうちで自分の子がパンを求めるとに石を与える者があるか。魚を求めるとにへびを与える者があるか。このようにあなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物を知っているとしたら、天にいますあなたがたの父はなおさら、求めてくるものに良いものを下さらないことがあるか。(マタイによる福音書七章九節から十一節)人がなすために前以ってある方法が備えてあり……：求めよそうすれば与えられるであろうと云うイエスの言葉を間違えて受取ってはならない。信仰には、信じてその信じるものを行って始めて信仰と云えるのと同じ様に、求めよそうすれば与えられると言う意味には熱心と努力を含みます。主は誰れにも出来るように道をそなえ方法をそなえて下さいました。

ハワイの会員たちは日本からの訪問者を心から迎えて、共にこみ上げる喜びをかくしきれず、強いハワイの陽の光に涙が光っていました。あるハワイの会員は、日本から神殿訪問に来ると聞いた時は、半信半疑でした。大きな犠牲を払って遠い所から来たのだから、それだけ日本には立派なモルモンが大勢いるのだね。それを思うだけで目頭が熱くなりませぬ。他の会員は神殿の近くに任んでいるので、神殿のありがたさが情性になりつつありました。日本の会員たちが神殿に



モルモン 教信徒 團 今朝借切り機て来布
神殿訪問のニュースを伝えるハワイの邦字新聞

来るために払った努力、その強い信仰に心を動かされ、かえって私は神殿の意義を再認識させられました。と話して下さいました。神殿で働いて下さった人々も、宿舎で、食堂で、またファミリーナイトに招いて下さった一人一人が心から兄弟姉妹であることに誇りを持って、是非また来て下さい、立派な日本の会員が一人でも多く神殿を訪れ福音の目的をまっとうできるように祈って止まない。と異口同音でした。第二回ハワイ神殿訪問は一九六七年七月を予定してもうすでに計画が進められています。第一回にも増して多くの信仰強い兄弟姉妹がこの計画に参加できるように全ての兄弟姉妹協力しましょう!!

この群衆を見て、山に登り、座につかれると、弟子たちが御もとに近寄ってきいた。そこでイエスは口を開き彼等に教えて言われた。(マタイによる福音書四章二十三節、二十五節、五章一節から二節)イエスの時代のイスラエルの地図をひろげて見ると、ガリラヤがどんなに遠くであるか、またギリシヤ人、シリア人アラブ人そしてユダヤ人と多国民が住むガリラヤ湖の東南部地方デカポリスからも、はるばる集まりました。むろん集まると一口でいっても数時間で来たり、帰ったりできず数日の旅をして、あるいは多数の人は野宿をして来たに違いありません。またその旅の間は自分の生計のための仕事を休んでほるばるオリブの山え来た人も多くいたことでしょう。あるいは不幸にして途中で盗賊の難にあいながらもイエスの言葉を耳にしようとした人もいたことであろう。それにくらべて、私たちは何んと恵まれた時代に生活していることでしょうか? 地方部大会に出席するために数日かかることもなければ野宿もしないで行くこともできます。

たとえ人数は少なくても私たちが二、三人集まれば主はそこの中にあると一八二九年四月予言者ジョセフ・スミスに啓示なさいました。誠にまことにわれれらにつぐ、一つのことにつき二、三人我が名によりて集る所には、見よわれは必ずその中にあらん。と我が弟子たちに言しごとく、誠にわれまた女の中にあるなり。

(教義と聖約六章三十二節) イエスはオリブ山で大会を開かれ群衆に話をされました。その後人々は何回となく大会を開いてもらいました。イエスはバプテスマのヨハネの死を聞いて悲しみ、舟でひとり寂しい所へ行かれたが群衆は歩いて後をおいイエスの言葉を聞かせてもらおうとしました。マタイはこの様子を十四章で次のように書いています。『イエスはこのことを聞くと、舟に乗ってそこを去り自分一人で寂しい所へ行かれた。しかし群衆はそれを聞いて、町から徒歩であとを追ってきた。』聖徒たちはイエスのあとを徒歩で追う程熱心に主の教えを求め主の言葉に飢えかわいた人々たちでした。私たちは指導者の言葉を耳にする機会が年に四回もあります。そして毎月メッセージを読むことができます。主は末日の予言者ジョセフ・スミスに三ヶ月に一度大会を開くよう教えられましたので、それだけ私たちの心は満される機会が多く与えられているのです。昔の聖徒たちはイエスの教えを聞こうとして三日も一緒にいて離れようとしなかったありさまを再びマタイの言葉から読んでみましょう。イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた。『この群衆がかわいそうである。もう三日間も私と一緒にいるのに、何もたべるものがない。しかし彼等を空腹のまま帰らせたくない。恐らく途中で弱りきってしまったであろう。』文字通り身も霊も満された聖徒たちは感謝してそれぞれの家路に向いました。昔の聖徒たちはこのようにして福音を学び大会に集まったのだと思います。

求道者のみなさまへ

「モルモン経」について

渡部 正雄

(伝道部系図委員会会長)



ヨセフの木

ゼなら、予言は決して人間の意志から出たものではなく、人々が聖霊に感じ神によって語ったものだからである」(ペテロ第二の手紙一〇二十、二一)

エゼキエルに主の言葉が臨みました。

「見よ、わたしはエフライムの手にあるヨセフと、その友であるイスラエルの部族の木を取り、これをユダの木に合わせ、一つの木となす」(エゼキエル書三十七〇一九)

旧約聖書創世記に記されてあるエジプトに売られたヨセフの子供のマネセの血統であったリーハイという予言者が主のみたまに導かれて一族を伴い紀元前約六百年頃アメリカ大陸に渡り、その後、ニーフアイ人及びレーマン人の二大民族に発展し、キリストの福音も説かれ、教会や神殿も建てられて一時は大変文化の栄えたこともありましたが。しかし紀元四百年頃、悪化したニーフアイ人は退化したレーマン人に亡ぼされて全滅し、レーマン人はその後、原始的な生活を続けて、今日のアメリカインディアンまたは中南米のインディオになっているのです。そしてこれらの民の記録が即ちモルモン経であり、ハイがヨセフの子孫でありますからヨセフの木(善物の意)であり、聖書は主としてユダヤ人について書かれてありますからユダの木であります。次にモルモン経の中にニーフアイは次のように記されています。

主の使がまた私に仰せになるには「見

伝道本部に出勤のため今朝(十一月十七日)も例のごとく東横線の満員電車の吊皮におら下っていた私は隣の若い紳士に「よろしかったらお読みになりませんか、これは私たちの教会のチラシです」と差ししました。紳士は待っていましたと云う風に「モルモン教会でどんな教会ですか? あなたが聖書でない聖典のようなものを読んでおられるのでおもしろいなど思っているのですが、聖書外典ですか?」「これが私たちの教会のモルモン経です。この外に私たちの教会には、現代の啓示をまとめた教義と聖約、及び高価なる真珠という経典があります」。

「聖書はお使いにならないのですか?」

「もちろん使います。御存じのように聖書は東半球の史実を伴った聖典ですが、これに対しモルモン経は西半球の史実をもなった聖典です」。

電車が「きくな駅」に止りかかると紳士は

「残念ながら私はここで降りねばなりませんので……」

「どうぞよかったですら教会にいらっして下さい」

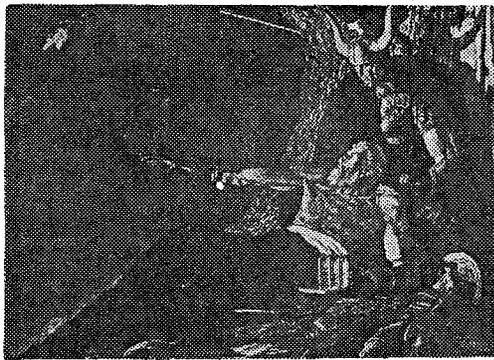
私はまたモルモン経を読み続けました。が、教会に入り、信仰を求められている方々に少しでも「モルモン経」を理解していただくという気持ちからこのクリスマスに少しは紳士に向けて語り続ける気持ちで書くことにしました。

最近、アラビヤの一童児の奇しき発見によって世に出された死海の書を始め、聖書考古界の努力によって、聖書の真実性が史実によって証明されて居ります。また同様に中南米、メキシコのピラミット、ペルーのマチュピチュなどに見られる、いわゆるインカの遺跡によってモルモン経の真実性が史実によって証明されて来ております。また私たちは聖書とモルモン経の中に、予言者エゼキエルとニーフアイの言葉によってこのことが予言されているのを読みます。先ずペテロが言っておりますように、「聖書の予言はすべて自分勝手に解釈すべきでないことを、まず第一に知るべきである。な

よ、神の子羊は次の如く言いたもう『われ告ぐ、われはイスラエルの家の残りの子孫、すなわち汝の父の子孫に裁きを以て罰を及し、異邦人らの手によりてこれをうちなやましたる後また浮れ女の母なるかの憎むべき教会子羊の福音のうち最もわかり易く貴き個所を除きて伝えざりしにより、異邦人らがことのほかつまずきたる後、われは異邦人らをその時、憐れと思ひ、その為能力を以て、わが福音の中、多くのわかり易く貴き所をかれらに明らかにせん。すなわち、われ汝の子孫に現われて汝の子孫はわれがかれらに教うる解り易く貴きことを書き記すべし。しかして汝の子孫が亡ばされて無信仰に陥り、また汝の兄弟たちの子孫もまたかくなる後、見よ、わが教えを書き記したるものは、子羊の賜と力とによって異邦人らに伝わるために隠さるべし。われ告ぐ、その中にはわが福音とわが岩とわが救いと書き記されん。』(ニーフアイ第一書十三〇三十四、三十五)

「私は私の兄弟たちの子孫の残りの者を見、またユダヤ人から出てきた神の子羊の書が異邦人たちから私の兄弟たちの子孫の残りの者に伝わるのが見えた。その書物がかれらに伝わってから私はほかにいくらかの書物を見たが、それらは子羊の能力によって異邦人たちからあの子孫たちに伝わったものであって、予言者たちと子羊の十二使徒の記録が確であることを、異邦人と私の兄弟たちの子孫の

残りの者とそして全世界の地に散らされたユダヤ人とに認めさせるために出てきたのである。天使はまた私に告げて「汝が異邦人の中で見たこれらの最後の記録は、子羊の十二使徒から出た最初の記録が真理であることを確に証し、またその中から抜きとられたはつきりしていて貴重どころを人に知らせ、また神の子羊が永遠の父なる神の御子であって、世の救い主であり、すべての人々はこの救い主の御許に來なければならぬ。さもなければ救われぬと言ふこと、またすべての人々は子羊の口によって親しく教えられる道に従ひ御許に來なければならぬことなどを、あらゆる血族、あらゆる國語



の民、あらゆる人々に知らせるのである。そしてその子羊の教えたもう道は、子羊の十二使徒の記録のみならずまた汝の子孫の記録の中でも明らかに書き示される。それ故に全世界を治め導きたもう神にして羊飼である御方はただ一人だけいますから、これら二つの記録は結局一つに合わされる。(ニーフアイ第一書十三〇三十八―四十一)

モルモン経はイエスをキリストと証する

このエゼキエルとニーフアイの記録によつてモルモン経と聖書との関係、モルモン経の内容、目的及びどのようにして世の中にもたらされるかをうかがうことができ、この予言は成就しました。それは一千八百二十七年九月二十二日、モロナイ天使によつて予言者ジョセフ・スミスに金版が手渡され、ジョセフ・スミスは一千八百二十九年の春頃に、約九十日間と同じく天使から授けられた「ウリムとトミム」と名づける訳器によつて英語に訳されたのです。このモルモン経の冒頭には次のように記されています。

「それであるから、この經典は、ニーフアイの民の記録とレーマン人の記録とを短くまとめたもので、イスラエル一家の残りの子孫であるレーマン人をはじめユダヤ人や異邦人に伝えるために書かれたものである。これは主の命令によつて書かれ、また予言と啓示の「みたま」に

よつて書かれたものである。これは神の賜と御力とにより滅び失せることなく、世に現われて解訳されるため、書かれた後封じて人の目に触れぬよう主の御許に託された。これは時節が來たら異邦人によつて世に現われるために、モロナイが自分の手で封じて人の目に触れぬよう主の御許に託したものであって、その解訳は神の賜である能力によつて成るのである。

またこの經典には、イテル経から取つて短くまとめた記録もあるが、それは人々が天に昇ろうとして一つの塔を建てていた時、主が人々の言葉を乱したもうた際に、よそに導かれて行ったジエレドの民の記録である。そしてこの記録の目的は、イスラエル一家の残りの子孫に、その先祖のために主が為したもうた大きな御業をことごとく示して、残りの子孫が主の誓約を知り、かれらはいつまでも棄てられないと言ふことを知らせ、またユダヤ人と異邦人ともにイエスは永遠の神なるキリストにましまして、万国の民に現われたもうことを確信させるためである。さて、もし欠点があれば、それは人間のしたあやまちである。それであるから、汝らがキリストの裁きの座で罪なしと認められるためには神のものを非難しないようにせよ。

このようにモルモン経は主の命令によつて書かれ、イエスは永遠の神なるキリストであることを万国の民に証し、この

末日に人類の救いのために回復された福音であります。主はヨハネにこれを黙示録で見せております。

「わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族のべ伝えるために永遠の福音をたずさえてきて大声で言った、「神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時がきたからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを伏し拝め」。(ヨハネ黙示録十四・六、七)

天使から渡された書物

人類の歴史を通じて直接天使から人間に手渡された書物は、恐らくモルモン経以外に無いでありましょう。それだけの書は素晴らしく貴重な書物であります。私たちがこの経典を手にする時、それが私たちの救いのために、「みたま」によって書かれたものであることをはっきりと知るのであります。そして私たちが実生活にとり入れるべき貴重な教えが多く含まれているのであります。今その若干を取上げて見たいと思います。

父リーハイからレーバンの家に、真鍮版を取りに行くように言われたニーファイは、父に向って「私は主が命じたもうことを行って行こう。私は、主が命じたもうことには、人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり、それではなくては、主は何の命令も人に下したまわらないことを承知しているからである」と

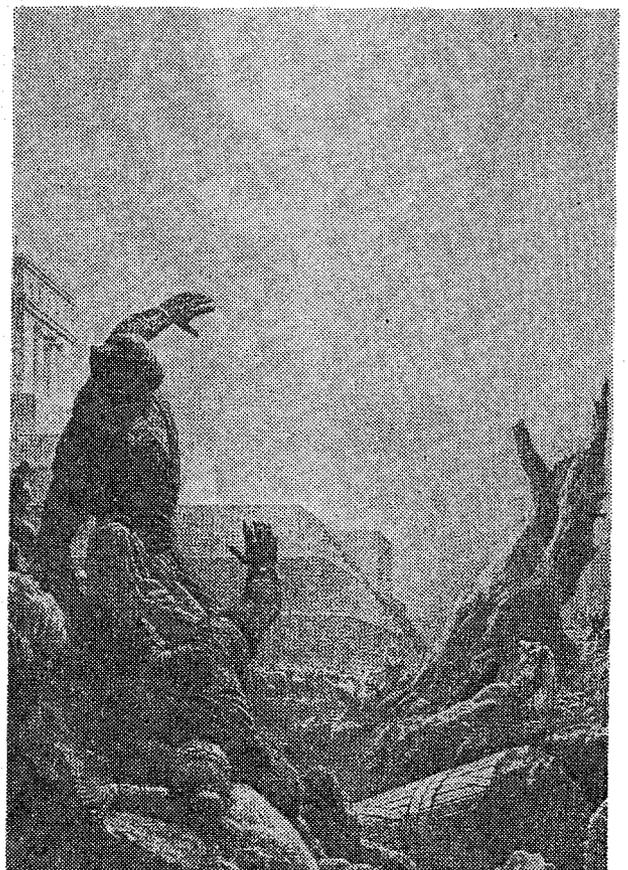
言った。(ニーファイ第一書三・七)

イスラエルの散乱と集合について ニーファイは書いております

「まことに父は異邦人とイスラエルの家について多くの話をしたが、それはイスラエルの家はその枝が折れて全地の上に散る一本の『かんらん』の木にたとえられる。それであるから、全地の上に散ると言う主の言葉がほんとうになるために、私たちは一しよになって約束の地へ導かれて行くにちがいない。そして、イスラエルの家は散ってからまた集り合うであろう。つまり異邦人が完全な福音を受け入れてから、『かんらん』の木の元の自然の枝であるイスラエルの家の残る者たちがまた親木に接がれるであろう。すなわちかれらの贖い主であってかれらの主であるほんとうのメシヤを認めるようになると言った」。(ニーファイ第一書一〇・二二―一四)

ニーファイは主の降誕を示現に見せられました

「すると天使は『見よ、今汝が見る処女は肉体に宿りたもう神の子の母である』と教えて下さった。私はそれからその処女が『みたま』につれて行かれるのを見た。その処女が『みたま』につれて行かれてからしばらくして天使が私に『見よ』と仰せになったから、私が眺めるとその処女がまた見えてこのたびは一人の幼児を抱いていた。天使が私に『神の子



イエス・キリスト復活し西半球に現われる

羊、まことに永遠の父なる神の御子を見よ……」(ニーファイ第一書一一・一八―一二)

救主のバプテスマに就て

「眺めると、父の話した世の贖い主が見え、また贖い主の先に立ってその道の備えをするはずの予言者も見えた。また神の子羊が進み出でたもうて、予言者からバプテスマを受けたまい、バプテスマを受けたもうと、天が開けて聖霊が天降り、鳩の下るように降って神の子羊の上に留りたもうのが見えた」(ニーファイ第一書一一・二七)

またニーファイは私たちと同様に弱い人間であることを自ら認めしたが故に常に聖文に親しみ、祈り、主に頼ったことが

私たちに身近かな模範として親しさを覚えさせるのであります。

「それは私の身も心も聖文を喜ぶので……ごらん、私は身も心も主に關する事を喜び……まことに私はわが肉体のために心に憂いがあり、自分の罪悪のために私の心は悲しむ。私は非常にたやすく追ってくる誘惑と罪惡とのために取り巻かれて……さりながら私は今までに誰を頼みにしているかを知っている。すなわち、私がこれまでに杖柱と頼んだのはわが神である。……わが神は私の肉体が燃えんばかりに、私の中にその愛を満したまい私の敵をして私の前にふるいおのかせんばかりにこれを破りたもうた。……かほどに大きな憐みを人間に与えた

もうとするならば、たとえ私がいかに苦しむからと言ってもどうして私の心が嘆いてよいだろうか……またどうして私の肉体のために罪に負けてよいだろうか。

どうして誘惑に負け、悪魔が私の心の中に入ってその平安を破り、私を苦しめるに任せてよいだろうか。……目醒めよ、わが心よ。もはや罪のために溺れるな……

……喜び樂しめ、わが心よ。主に叫んで言え『主よ、われはとこしえに主を讃め奉る。まことにわれは主なるわが神わが救いの岩によりて喜ぶ。おお主よ、われを贖いたまえ。われを敵の手より救いたまえ』。(ニーフアイ第二書四・二五―三二)

ニーフアイはまた主の贖いと私たちの救いについて次のように述べておられます

「見よ、神はおよそアダムの家族である者は男でも女でも、差別なくあらゆる命のある者の苦痛を受けたもう。神がこのように苦痛を受けたもうのは、一切の人類をあまねく復活させて、あの大裁判の日にすべての人を神の御前に立たせんがためである。神はすべての人に向って、汝らはイスラエルの聖者を全く信仰して悔い改め、神の御名によってバプテスマを受けよ。さもなければ神の王国には救われないと仰せになる。よって、もしもすべての人々が悔い改めて神の御名を信じ、その御名によってバプテスマを受けることなく終りまで恐ばなければ、必ず救われないのである。イスラエルの聖者主なる神がこう宣うたからだ」(ニーフ

アイ第二書九・二二―二四)

私たちの学問の態度について、ニーフアイはまた次のように教えておられます。

「お人間の虚栄と意志の弱さと愚さよ。人間は学問があると自分は賢いと思つて神の訓戒に耳をかさず、自分独りで解ると思つて、神の訓戒をうち捨てるから、その智慧は愚かであつて何の益にもならず、かれらはついに亡びるのである。しかし人間がもしも神の訓戒に従うならば、学問のあるのも善いことである」。

(ニーフアイ第二書九・二八、二九)

謙遜なベンジャミン王は、その死期が近づいた時に全国の民を集めて尊い説教をしました。

「私が一生の間お前たちのために務め



たとえ言ったのは、これを自慢したいと思つて言ったのではない。私が務めたのはただ神のために務めただけである。ごらん、私がこれらのことを言うのは、お前たちに知識を与えるためであつて、またお前たちが同胞のために務めるのは、ただお前たちの神のために務めるのであることを悟らせるためである。……

お前たちに尋ねるが、お前たちは少しでも自分をほめることができるか、ほめることはできない。お前たちは大地の塵から造られた者であるが大地の塵でさえもお前たちを造つたお方のものであるから、お前たちは自分から大地の塵にひとしい者であるとさえも言うことはできない。お前たちがお前たちの王と呼んでい

る私でさえも塵から造られたものであるから、少しもお前たち以上にすぐれてはいない。お前たちは、私が年をとつて今や死なねばならぬこのからだをもとの土にかえそうとしている様を見ている。……

さらに私はお前たちが神の命令を守る人々の受ける幸福な楽しい境涯をよく考えるように望む。ごらん、その人たちはこの世に關係のあることでも靈に關係のあることでもすべてに祝福を受けて、もし最後まで耐え忍んで忠実であるならば天に迎えられ、とこしえに幸福な有様で神と共に住めるのである。主なる神がこのように言いたもうたから、以上のことが真実であることを忘れずに記憶せよ」

(モーサヤ書三・一六、一七、二五、二六、四一)

最後に天使モロナイはこのモルモン経が真実であることを聖霊が証すると読者の信仰心に挑戦しております。

「またこの記録を受ける時、それが真実なものかどうかをキリストの御名によつて永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば、神は聖霊の力によつてこの記録が確なものであることをあなたたちに示したもうにちがいない」。(モロナイ書一〇・四)

第 四 課

天父の子として私たちは天父にお祈りする権利を
持っています

「家族の夕」テキストの製本がおくれますから、その間聖徒の道に掲載します

「目標」

家族の各人が彼が神の子であり相統人であるから霊的な家督権を持って居り、それは彼に天父に祈る権利を与えることを確信するように助ける。

彼は彼の行為に責任をとることを学ぶことに祈る権利を用いるでしょう。

「歌と祈り」

歌を歌うか又は、私は神の子のレコードを聞くのが適当であります。

貴方は貴方たちが皆天父の相統人であること、又この真理が貴方たち一人々々の生活の中に善をおこなおうとする力をもたらししていることを天父に感謝しようとするでありましょう、貴方は又天父の子として貴方が持っている霊的家督権に更に光を求めらるでありましょう。

「新しいレッスンに導くための復習」

次の声明は家族をしてその新しい目標を理解するに必要な先週のレッスンに含まれている重要な真理を思い起させるのを助けるでしょう。

私たちは神の子たちとして彼の相統人であります。彼の相統人として、若しも私たちがあ

条件にかなうなら永遠の生命を受け継ぐでしょう。永遠の生命に価値ある者となるためには、私たちは私たちの行為に対して責任をとることを学ばねばなりません。神の子たちとして私たちは私たちの内に私たちの過ちを克服して私たちの行為に對し責任をとる力を持って居ります。

「レッスン」

「私たちは霊的家督権を持って居ります」。

今日のレッスンは天父に祈る私たちの権利を理解し、感謝することに關してであります。それは彼の子供としての私たちの特権であります。

貴方の家族は家督権の意味を理解する必要があるでしょう。先ず家族の者たちをして普通に使われているその言葉に就て討論させなさい。家督権は人がある一定の家庭に生れた為持つ権利を言います、例えば次の各項を持つ権利であります。

その家族の姓

その家の財産、家宝、金銭の分譲

鍵

その家庭に自由に出入出来る年令に達し、資格を持ったら

その家の自動車を使用する
その家の住所（宛先）で郵便物を受取る
家にお客さんを歓迎してもてなす

家族のモットー又は家紋を採用し又は用いる。

私たちは私たちの天父の家族に生れたのです。この事は彼の子供として私たちに霊的な家督権を与えるものであります。下記は貴方の討論をこの点に導くかも知れません。

永遠の生命のための私たちの家督権の要求にそつた生活をする事は容易なことではありません。私たちは私たちの行為の責任をとるといふ小さな事でもある場合には、そう容易でないことを発見します。それは只私たちが私たちの天父に接近し彼のみたまを常に私たちと共に保つていたら出来るのであります。彼は私たちにこれをどのよへにすべきか告げました。彼は私たちに祈りに於て彼と語る権利を与えました。これも又彼の子供としての、私たちの家督権であります。

次の聖句を声を出して読みなさい。年長の子供はレッスンの

前に読んで準備することが出来ます。若し家族の各人が自身の標準聖典を持っているなら毎週聖句を読むに従って神の言葉を好きになるでしょう。

教義と聖約八十八章の六十三節に私たちの天父は私たちの彼に祈る権利に就て素晴らしい約束を与えました。

われに近づけ、さらばわれ汝らに近づかん。熱心にわれを求めよ。さらば、汝らわれを見出さん。求めよ、さらば与えられ叩けよ、さらば開かるることを得ん。

私たちが只天父の子として彼に祈る権利を用いようとしさえすれば彼が私たちに近づく約束された約束を強調しなさい。次の点に就て討論しなさい。

私たちは常に私たちの祈りの内に天父に近づいているでしょうか？

私たちはどのようなようにして天父に近づくことが出来るでしょうか？

天父を熱心に求めるとはどんな意味ですか。

若しも私たちが求めるならばどのような約束をされるでしょうか。

祈りと永遠の生命の相続との

間にはどのような関係がありますか？(私たちの天父は私たちが再び彼と共に住めるように彼のようになるように望んで居られます。私たちは祈りの内に彼とお話をする特権を用いずには到底これを達成することは出来ません)

モルモン経からアルマ書三十四章の十九節から二十七節迄を読みなさい。家族の各人が一部づつ読んで彼らの生活上に及ぼすその意義に就て討論しなさい。子供たちは前以て準備する必要がありません。

へりくだってたえず神に祈れ 牧場に居る時は、あなたたちの家畜の群について神に祈れ。家に居る時はあなたたちの家族全体について朝も昼も晩も神に祈れ。

あなたたちの敵の力を防ぐことができるように神に祈れ。

一切の義しいことに敵対する悪魔を防ぐことが出来るように神に祈れ。

あなたたちの田畑の収穫が豊かであるようにその作物について神に祈れ。

牧場にあるあなたたちの家畜がふえるように神に祈れ。

こればかりではない。あなた

たちが一人で部屋に居るときも秘密の所に居るときも、また野に居るときも心にあることをうち明けて祈れ。

声をあげて主に祈らない時でも、自分の為また自分のまわりの人々の為を思ってたえず心中で主に祈れ。

貴方の家族の人たちが、この聖句が昔これを始めて聞いた人たちに適用されたと同じように彼らにも適用されることを見る事が出来るように彼ら自身の生活に適用するように助けなさい。

このレッスンを使用している皆さんの多くが家畜や畑を持っているのだから、その為に祈ることが出来ないのですから、貴方の日常生活の中でこれに比較されると思われることに就て討論しなさい。恐らく子供たちは学校のことについてどのよう

に祈るか、父親は彼の仕事に就て又母親はそれを家事の責任に適用出来るでしょう。

次に貴方はここに書かれてある通りに貴方に適用される聖句に気がつき、これを強調したいと思われるでしょう。

次の聖句を考えて子供たちにより身近かに感じられる貴方の

模範を示すようにしなさい。

家に居る時はあなたたちの家族全体について朝も昼も晩も神に祈れ。……等、これらはいつも貴方の家族の祈りに適用して居りますか？

部屋に居るときも、秘密の所に居るときも、また荒野に居るときも心をうちこんで祈れ。

これは若い人たちにとって伝道又は結婚に集中することを意味することが出来るでしょう。それは就職又はその他人生の重要な決定をする時必要な選択に適用出来るでしょうか？

荒野は堪えねばならない試練及び悲しみに参照出来るでしょうか？ この句はこの外どんなことに適用されるでしょうか？

家族の者たちに私たちの天父は彼らのすべての事に就て関心を持って居られることを感じるように手伝いなさい。彼らの日常生活に於て天父の助けと感化を求める権利ほど必要で正しい精進となるものはないのであります。彼らは彼らの不断の同伴者としての天父に求めるに外ならないのであります。

「祈る権利を説明する話」 次の話を用いて私たちの天父

は私たちのなす、すべての努力に関心をもち、若しも私たちが彼の子供たちとして、彼に祈る私たちの権利を覚えて居るなら私たちが共にある事実を強調しなさい。それは少年の生活に於ける一つのエピソードに過ぎませんが、その根本的な真理は同様に成人にも適用されるのであります。教会の多くの成人たちが導きを受けるべく天父に祈る権利をあまりよく用いていないのであります。

「第一の話」

アンディーは彼の家督権を覚えています。

アンディー・フリクソンがマーチンの車に乗った時に彼のお父さんは言いました。

「息子よ、楽しんでいらっしやい。そして何にもましてお前は自分が誰であるかを覚えていらっしやい。」

「はい、きつと」

アンディーはそう言ってマーチンさんが避暑地の山目ざして車を走らせた時お父さんお母さんに手をふりました。アンディーはそこでマーチン一家と数日を過すのでした。

アンディーの一番好いお友だちであるパウロ・マーチンはい

ぶかしそうに「何故君のお父さんは君に君が誰であるかを覚えていなさいと言ったのだろうか？彼は君がアンディー・フリクソンであることを忘れるとでも思ったのかしら？」

「いいえ、そうじゃありませんよ、それは私が家から離れている時に家名を落してはいけないと言うことを心にとめておくようにということですよ。礼義正しくしなさいと言ふこと、それだけです」。アンディーは答えました。「ああそう」パウロは鞆の中のガムを探しながら言いました。

アンディーは考えました。「お父さんが私に誰であるか覚えなさいと告げた時は、私がそれが何を意味するか今言ったことを意味している。けれどもそれは、それ以上のことをも意味している、それは私が天のお父様を持って居り、そしてそのことは私が彼の助けが必要な時に彼に祈る権利である家督権を持っていることを意味しているのだ」

アンディーのお父さんとお母さんは霊的な家督権とは何を意味するかに就て、アンディーによく話しをし、彼はそれに就て

よく考えたのでありました。けれども今はパウロは祈る権利を与えられたことを理解するよう気分でないことを彼は知っていたのでありました。

ガムが出来た後、二人の少年は車の中で遊べるゲームに心を向けました。

マーチン一家と彼らの若い友、アンディーが目的地に着いた時、マーチン氏は彼の時計を見て言いました。

「まだ暗くなる迄、何時間かあるようだね、お前ら子供たちはこの数日間どうしたらよいか見つけ出すために探検しておいでよ」

「はい」少年たちは車から飛び出しました。

パウロはアンディーに彼らの別荘地のあるアトライションを示し始めました。そこには魚を釣れる河がありました。そこには彼らがやじりに使う岩を見つげられる岡もありました。そこには又いろいろな小さな動物の住む林や海狸の住む池さえありました。

何とこれは素晴らしい処だろう。僕はこんな面白そうな処を見たことがない。アンディーは思いました。

幸福の絶頂にあったアンディーの気持も忽ちにして変りました。彼は太陽が沈んで夜のそばりが静かに谷間を覆って行きました。たった今迄元氣よくさえずっていた小鳥もビタツと静かになって谷間からの冷い風にアンディーは身震いしてしまいました。

アンディーは仲好しのパウロもこのすべての変化にびっくりしているかと思つて見ましたがパウロはいかにも幸福そうでした。彼は只空腹を覚えて、お母さんが夕食に呼ぶのを待ちかねているようでした。

その時丁度、マーチン夫人が子供たちを呼んだので彼らは夢中になって駆けて行きました。

アンディーは考えつづけました。僕はマーチン家と一緒に泊りたくない。家に帰ろう。どうしても帰りたい。彼はマーチンさんに、今夜家に連れて帰るように頼もうかと思いました。けれども彼は皆に彼が一晩もよそに泊れないと言つて笑われるだろうと感じました。アンディーは考えました、きつと僕が病氣か何かになったらお父さんは心配して僕を迎えに来てくれるだろう。

けれどもマーチンさんの別荘には電話もないのでアンディーは自分がどのように感じているか家に知らせようもありませんでした。

アンディーはすっかりふさぎ込んでしまいました。僕は帰るんだ、皆がベットに入ってしまったから歩き出すんだ、僕は道を見つけることが出来るんだ。朝迄には僕は家に着けるんだ。

帰るんだと言う考えがいくらかアンディーの気持を楽にしました。

マーチン夫人はアンディーがすっかりしょげて食物にも手を出さないのに気が付きました。

「アンディーどうしたのよ？気分でも悪いの？」

彼女はやさしくたずねました。瞬間アンディーは今がチャンスだ。若し彼が病氣だと言えばマーチンさんが家につれて行ってくれるだろう、けれども彼はマーチン夫人の意味しているようなほんとの病氣でないことを知っていたので「いえ何でもありません」と答えました。アンディーはマーチンさんが二人の少年のために計画してくれたこの楽しい遊びを自分がこわし

ていることに気がついてすまなく思いました。アンディーのホームシックの滅入るような気分は、どうしてもよいお客さんになれませんでした。彼はパウロが今夜がっかりしたに相違ないと思いました。

後にパウロが眠ってしまったからもその側に横たわったアンディーの眼は、ぼちちりとして今出かけようか今出かけようかと決めかねている時不思議なことが起りました。生れてから今迄聞いたこともないような、はっきりした声でアンディーはお父さんの言う声を聞きました。

「息子よ、お前は自分が誰であるかを覚えてらっしゃい」

この時家族の者たちに次のような質問を討論させなさい。

若しも貴方がアンディーの立場に立つたらどうしますか？

アンディーは何を忘れたでしようか？

(彼は神の子であり霊的な家督権即ち助けを祈る権利を持っていることを)

この話はどうのような結末にすべきだと思いますか？

家族の者が提案するすべての結末を受入れて後、下記の話の結末を読むか又は告げてあげな

さい。

お父さんの声が聞えた気がしてから彼は、お父さんにもお母さんにも話すことは出来ないと思いました。けれども誰かここに自分のこの滅入った気持ちから助けてくれる、話すことの出来る人が居る。彼は僕の天のお父さんだとして僕に祈る権利を持つて居るのだ、アンディーはかたく眼を閉ちて拳を握りしめ黙って熱心に祈りました。

天のお父様、どうぞ私が家に帰らないですむように、気持ちよくここに数日間泊れるように助けて下さい。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。繰返し繰返しアンディーは祈りました。最初は身動きも出来ないように緊張して祈りました。けれどもだんだんとくつろいで遂に安らかな落付いた気持ちに充たされました。これでもう大丈夫だ。アンディーは思いました。天のお父様、助けてくれて有難うございました。彼は祈りました。そしてアンディーは寝返りをしてすやすやと眠りました。

「第二の話」

ヤコブは彼の家督権を覚えて居ります。

ここに若い人のホーム・シックに就てのもう一つの話があります。これも貴方の家族に彼らの霊的な家督権、祈る権利を思い出させるでしょう。

昔、ヤコブと呼ぶ若者が彼のように天父を信じている妻をたずねて家を出ました。三日旅を続けてから彼は後にベテルと名付けた場所に着きました。彼は愛するすべての家族を後に出て来たのですから淋しくホーム・シックになっていたに相違ありません。ヤコブは今迄家から遠く離れたことはありませんでした。彼は特に家族のテントに近く暮らして居りました。けれども今夜は彼は只一人ぼっちでした。私たちは彼が愛する両親に思いをはせ、今迄暮らし馴れた生活を思い出していたと想像出来ず。

ヤコブは固い土の上に石の枕を置いてベットをつくりました。彼は神に祈る権利を持っていてと教えられていたので私たちはこの場合彼が確かにその権利を行使したに相違ないと感じるので。だから彼は示現に恵まれ、その中で彼は天使を見、次のような記念すべき神の声を聞いたのであります。

わたしはあなたと共にいてあなたがどこへ行くにもあなたを守り……(創世記二八・一五)

ヤコブは心に深く、常に神を求め神に近づく決心をしてこれに応えたのであります。

「私たちは祈る権利を持って居ります」

ヤコブに語られた言葉は彼に對すると同様に私たちすべての者に意義があるのであります。それは私たちに私たちが神の子であり。彼の相続人であり若しも私たちが彼に祈る権利を行使するならば彼は私たちと共に在ることを思い出させます。若しも貴方が主がヤコブに言った言葉を貴方の掲示板か、かけじくのような紙に書いて皆が見える処に置いておけば家族の者がこのメッセージを心に刻む助けとなるのであります。

貴方の家族の者たちも又同様にその心に深くその霊的な家督権を思い、その祈る権利を用いるように決心するように導きなさい。祈りなくしては彼らは永遠の生命を相続するように私たちの天父の側近く留めることは出来ないことを知るように助けなさい。

家族の者たちをしてホーム・

シック以外に彼ら自身の秘かな生活に於て祈る権利を行使する必要がある場合に就て討論させなさい。貴方は若し誰かが彼が彼の行為の責任を取るには天父に彼と共に在るように祈る必要のあることを学んだことを自覚したとしたり幸福に感ずるでしょう。

「私たちは私たちの祈る権利を用いましょう」

今週中各人が自分の行為に責任をとることを学ぶ如何なる事を遂行したか検討しなさい。家族の各人をして彼らの成功を記録して来た用紙を見させなさい。各人をしてその進歩を評価させなさい。恐らく家族のすべての者が自分の行為に對し人を咎めようとすると人間の性癖が如何に深く根強いものであるかに驚くのであります。次の質問は貴方の家族がこの欠点を克服するために長期の努力を要することを認識する助けとなるでしょう。

一週間に貴方は貴方の行為に對し責任を取ることを学びましたか？
貴方は完全に古い性癖を失いこれから貴方の過ちに對し人を咎めない新しい習慣を身につけ

ましたか？
貴方は何か貴方が為した悪いことに対し、誰か他人を咎めようと考えようとさせずに、自ら責任をとることが出来ませんか。

貴方は貴方が貴方の行為を弁護し、貴方がためした事の言いわけをしている時、いつも気が付きませんか？

次のような状態によって貴方の進歩をテストしなさい。貴方が若し大人であつたら子供になつたと考えて下さい。かりに貴方の親がぬかるみに近寄つてはいけないと言つたとしましよ。けれども貴方はぬかるみのすぐふちを歩いて立止つてそれを見つめていたとしましよ。そして、貴方の遊び友だちが貴方を押してぬかるみに入れたとしましよ。貴方は泥まみれになつて家に帰つた時何と言いますか？ 貴方は「僕の友だちがぬかるみに押入れたんだ」と言いますかあるいはまた「僕はあんまりぬかるみの近くを歩き過ぎた」と言いますか？ 皆にその答へを考えさせてから家族で討論しなさい。

貴方は完全に古い性癖を失いこれから貴方の過ちに對し人を咎めない新しい習慣を身につけ

伝道本部だより

十月

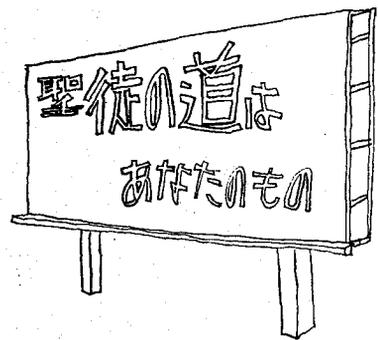
バプテスマおめでとう
ございます

- 旭川 オオシロ シゲオ
- 福岡 モトダ レイコ
- 群馬 カワイ レイコ
- ハナカワ キヨコ
- コジマ ノリオ
- ヤマモト チハル
- 広島 ナカオ モトエ
- オカノ マサトシ
- 甲府 オギノ マサユキ
- クボ カツミ
- 名古屋 イト ヨシアキ
- ナルセ タカオ
- 岡町 オチ ヨシジロウ
- ヤナギサワ スズコ
- 岡山 タケハラ マナブ
- 札幌 ツチダ シゲキ

- ヤマダ ヤスヒコ
- イト アキオ
- ノロ シンスケ
- 仙台
- イシヤマ ツネコ
- トド サダノリ
- 東京中央
- ハットリ ヨコ
- イナバ チカエ
- 東京北
- カワサキ マサル
- ワタナベ カズヨ
- シブヤ ヨシコ
- ヒグチ マサエ
- ヤマシタ シンヤ
- 東京西
- ツツイ サユリ
- マチダ カズミ
- カジモト トロヒロ
- 横浜
- ヤマダ ユキコ

- 群馬
- イシムラ ヤスナリ(祭)
- アオキ ハカル(祭)
- サイト マサル(祭)
- ヤマモト チハル(執)
- ナグモ アサオ(教)
- クシザキ サトシ(教)

- 甲府
- サカモト キミハル(執)
- 室蘭
- ツジ フミヨシ(執)
- 岡町
- イモン カズトシ(執)
- イシカワ ケニチ(教)
- 三宮
- キムラ ハツジ(執)
- イノシタ ケイ(執)
- 札幌
- ヒロタ モリユキ(執)
- 東京中央
- モンデン キタロ(教)
- ヨコヤマ カツトシ(教)
- サカイ ノリトモ(教)
- 東京北
- ミヤザワ キヨイチ(教)
- フジマツ マサアキ(祭)
- 東京西
- サクライ マサヒコ(祭)
- マメミヤ ヤスヨシ(祭)
- クワタ ヒデトシ(執)
- 横浜
- コスギ イサオ(執)
- ササキ ヒロシ(教)
- オカダ アキラ(教)
- イワナミ ノボル(教)
- ヤマモト シュンイチ(祭)
- アサマ ゲンヤ(祭)
- クマキ タカユキ(祭)



●連絡先がわかりました。

今まで「聖徒の道」編集部の連絡場所は東京中央支部の一室を借りておりましたが、今度から編集部が伝道本部内に設けられますので、発送の問合せならびに原稿の送附先は左記のところにお願いいたします。

東京都港区麻布広尾町十四
末日聖徒イエス・キリスト教会
「聖徒の道」編集部

なお封筒の片スミにSEITONO MICHU と朱書をしておいて下さいますと、本部の宣教師にもよく判ります。

●編集担当者がかかりました。

松浦兄弟により本場に長い間この「聖徒の道」もいろいろの意味で発展してきましたが、ここで編集担当者をかえて、新しいスタイルで出発することになりました。こんど担当するのは、山田五郎兄弟(第一副伝道部長)と小林義生兄弟(東中央地方部評議員)の二名です。

一冊づつ支部を通じて買い求める場合は従来どおり一冊八十円ですが、一年間予約される方は一冊あたり七十円になりますので、予約された方が有利になります。

すでに予約された方は、一年予約の方は二冊余分に(計十四か月分)半年予約の方は一冊余分(計七か月分)送ることになります。

なお送料はその値段のなかにふくまれています。

図書案内

教義と聖約

高価なる真珠上質革製合本	二〇〇円
モルモン経	三〇〇円
教義と聖約 合本	三〇〇円
高価なる真珠	三〇〇円
モルモン経 (新訳)	三〇〇円
信仰箇条の研究	三三〇円
モルモンとは? (新版)	一五〇円
総合聖句の手引	一五〇円
日本系図探究要覧	一〇〇円
アロン神権者用学科課程	一五〇円
メルケゼデク神権、教師と生徒用 「モルモン経の読み方の手引」	二〇〇円

ナザレのイエス	一〇〇円
正しい日本史	一〇〇円
家督権の祝福	一〇〇円
料理の作り方	五〇円
求道者教育法	一〇〇円
神の王国	二〇〇円
基督・イエス	三〇〇円

日曜学校用

モルモン経物語	一五〇円
旧約聖書物語	一五〇円
家族の昇栄	二〇〇円
福音の実践	二〇〇円
奇しきみわざ(上)(下)	二〇〇円
我等の標準聖典	二〇〇円
古代の使徒	一五〇円
シオン山の救い手たち	二〇〇円
教義と聖約の教え	二〇〇円

M I A 用

我ら指導者のことば	二〇〇円
我らは信じる	二〇〇円
我らは生きる	二〇〇円
我らは奉仕する (一九六六年度テキスト)	一五〇円
生活の目標	一五〇円
今日の十誠	二五〇円
M I A・エンサイン ローレルの手引	一五〇円
演説が上手になる法	一五〇円
素晴しき考え (一九六六年度テキスト)	二〇〇円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌(新版)	四〇〇円
レクリエーション歌集	四〇〇円

——注文は各支部長へ——

お知らせ

日曜学校六十六年度テキストは次のとおりです

- A コース 旧約聖書物語
- B コース 福音の実践
- C コース 福音の紹介
- D コース 家族の昇栄
- E コース 教義と聖約の教え

図書の購入は支部長会に申し出てください

編集後記

新年おめでとうございます。
松浦兄弟が学校と就職のため、今月号から聖徒の道ではおなじみの小林義生兄弟と私が担当することになりました。聖徒の道を更に向上させるため、そして兄弟姉妹の皆さんの証詞を強めることが出来るように努力して行きます。どうぞよろしくお願いします。ゲータは「愚かな人たちも賢い人たちも等しく無書である。しかし中途半端な馬鹿な賢者、これは極めて危険である。」と言いました。そこで小林兄弟も私も年頭にあたり、中途半端なものにならないよう決意を新たにしています。「わたしはあなたのわざを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷いか熱いかであってほしい。このように、熱くもなく、冷たくもなく、なまぬるいので、あなたを口から吐き出そう。(ヨハネ黙示録三章十五、十六節) (山田兄弟)

■この本がお手もとにとどくころには、荒涼たる冬枯れの自然をよそに、一年の総決算がはじまります。クリスマス、年の市と街は大売出しの狂騒曲をかなでるが、静かな祈りと家庭のダンランで新年を迎えたいものです。

■最近家族ぐるみの改宗者が増えて、「家族」のいろいろな問題が話題にできますが、この「聖徒の道」もみなさまの家族の一員として歓迎していただけるようになりたいもの。生意気な前口上が続きましたが、この度編集をお手伝することになった小林兄弟です。大いにはりきって責任をはたしたいと思っています。どうぞよろしく。

(二)

支部所在地

北海道地方部

旭 川 旭川市8条5丁目
MIA集会所 旭川公会堂
電話 (2-1545)
室 蘭 室蘭市幸町89
電話 (7054)
小 樽 小樽市富岡町1ノ35
電話 (2-8224)
札 幌 札幌市北2条西24丁目
電話 (63-7866)

東中央地方部

群 馬 高崎市並榎町275
電話 (2-7121)
甲 府 甲府市中央3丁目12-2
松 本 松本市鷹匠町269
新 潟 新潟市中大畑町557
電話 (2-8660)
仙 台 仙台市光禅寺通り28
電話 (25-0897)
東京中央 東京都港区青山北町6ノ34
電話 (408-3307)
東京北 東京都中野区江原町1ノ8ノ14
電話 (952-1531)
東京東 東京都江戸川区小岩町6-780
電話 (657-5223)
東京南 東京都大田区南千束町249
電話 (729-6311)
東京西 東京都武蔵野市吉祥寺東町1ノ7ノ7
電話 (22-6764)
山 形 山形市七日町4丁目12ノ23
横 浜 横浜市港北区篠原町29
電話 (49-8772)

西中央地方部

阿 倍 野 大阪市阿倍野区阪南町中1ノ38
電話 (621-8327)
福 岡 福岡市浄水町46
電話 (52-8653)
広 島 広島市古田町古江400ノ3
電話 (31-6135)
金 沢 金沢市上胡桃町11
京 都 京都市左京区下鴨松原町44
名 古 屋 名古屋市昭和区北山町3ノ41
電話 (73-4210)
西ノ宮 兵庫県西ノ宮市仁川町4ノ54
電話 (5-0141)
岡 町 大阪府豊中市岡町北2ノ18
電話 (2-1236)
岡 山 岡山市北方70
三ノ宮 神戸市灘区篠原本町4ノ35
電話 (86-2602)
柳 井 山口県柳井市今市391

沖縄地方部

普 天 間 沖縄宜野湾市野嵩区328
那 覇 沖縄那覇市松尾区139

建築部事務所 東京都港区青山北町6ノ34
電話 (402-4010)

(誤りのある支部の支部長はご一報ください)

聖徒の道は
私たちが真理を知る「てだて」であり
私たちの心と心がかよう道です
あなたの霊の進歩のために
あなたの信仰のかてのために
お役に立てる本であればと思います。

名古屋市千種区鍋屋上野所長
3.6/10
鍋屋上野佐尾

八木沼セワ子

聖徒の道

一九六六年一月一日発行
振替口座 東京一六二二六番

発行人兼編集人 アドニー・Y・小松
発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
印刷所 合名会社三五堂

定価八十円
一年予約八百四十円(申込は支部長まで)